

令和7年度むかわ町鵜川厚生病院運営協議会（第2回）

1 日 時 令和8年3月18日（水） 14時00分～15時00分

2 場 所 むかわ町産業会館第2会議室

3 委員の出欠

毛 利 好 隆	出席
野 宮 誠	出席
沼 田 智 明	出席
前 田 幸 男	欠席
関 真 紀	出席
渡 辺 博 司	出席
宮 崎 晴 美	出席
佐 藤 博 征	出席
鍋 城 弥 生	出席

4 説明のため出席した事務局職員

むかわ町保健介護課 課 長 梅 津 晶
(オブザーバー)

町立国保穂別診療所 事 務 長 横 山 貴 仁

5 指定管理者

北海道厚生連事業推進部	医療事業課係長	柿 原 誠
むかわ町鵜川厚生病院	院 長	越 智 勝 治
	事 務 長	工 藤 和 寛
	看護管理科長	内 海 郁 江

6 協 議 報 告

- (1) 鵜川厚生病院の運営状況等について
- (2) 次年度の診療体制について
- (3) 内視鏡検査拡充等について
- (4) 令和8年度むかわ町病院事業会計予算について

7 その他

8 議事の概要

発言者	発言内容
梅津課長	開会、指定管理者側の出席者紹介
毛利会長	あいさつ（省略）
毛利会長	報告事項（１）から（３）は関連がありますので一括して説明をお願いします。
<p>工藤事務長</p> <p>越智院長</p>	<p>○ 報告（１）鶴川厚生病院の運営状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日頃から当院の運営に対する格別のご支援・ご協力に感謝します。 ・ ４ページの資料は１月末の収支状況ですが、２月末の収支状況も確定していることから、その状況を含め報告します。 ・ 入院患者数ですが、計画値２１名に対し２５名と病床稼働率が高く推移し、外来患者数も計画値７１名に対し８０名と稼働率が高く推移しました。 ・ 損益差額は計画値△１７，２０４千円に対し△１２，７５４千円であり４，４５０千円改善傾向です。１月末までの累計収支も計画値△１９５，８５５千円に対し△１８３，９５８千円であり１１，８９７千円改善傾向です。 ・ ２月は入院患者数が計画値２１名に対し２７名、外来患者数が計画値７１名に対し８２名と１月より稼働率が高く推移し、単月収支で損益収支が計画値より約１０，０００千円、２月末累計で約２２，０００千円と改善傾向です。 ・ 決算では損益差額計画値△９５，５００千円より収支改善が見込まれていますが、令和６年度決算△４１，３４２千円には届かないかもしれませんが、それに近い決算となるよう、残りの期間、稼働率を上げていきたい考えです。 <p>○ 報告（２）次年度の診療体制について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度の診療体制は、昨年８月に３人目の常勤医師が着任したことから、引き続き常勤医師３名体制での診療を予定しています。 ・ 札幌厚生病院から主に不整脈のカテーテルを使用した電氣的治療等が専門の医師を迎えて、循環器専門外来を昨年４月から月１回開設しています。治療は札幌厚生病院で行うことができ、予後のフォローも当院で行えることもあり、治療した患者さんには好評をいただいていることから、来年度も継続することが決定しています。 ・ 王子総合病院と苫小牧市立病院から医師を迎えて、整形外科の外来診療を週２回開設しています。２名のうち１名の医師の勤務先が変更となりますが、来年度も同じ医師を迎えて継続できることとなりました。 <p>○ 報告（３）内視鏡検査拡充等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内視鏡検査については、これまで札幌厚生病院から上部内視鏡検査、いわゆる胃カメラを月２回受け入れてきましたが、昨年８月に内視鏡専門医の松浦先生が常勤医師として着任され、検査機器の整備、スタッフ教育等に時間を要しましたが、１１月からは常時、上部内視鏡検査のほか、下部内視鏡検査、いわゆる大腸カメラの実施体制が整い、検査予約もかなり埋まっている状況です。 ・ 内視鏡検査は辛いというイメージをお持ちかもしれませんが、鎮静させる薬剤を使用して比較的楽に検査を受けられる体制を整えており、今後は、内視鏡的な治療等も含めて当院で完結できるようにしていきたいと考えています。
毛利会長	３件の報告事項の説明が終わりました。皆さんから質問やご意見はありますか。
毛利会長	私は昨年１２月に内視鏡検査を受け、今回は４月にも予定していますが、松浦先生、上手だなと感じています。ぜひ皆さんにもご紹介いただければと思います。

毛利会長	続いて報告事項（４）について説明をお願いします。
梅津課長	<p>○ 報告（４）令和８年度むかわ町病院事業会計予算について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今月町長選挙が執行されましたが、新町長の政策に関連した予算を６月開催予定の町議会に上程する予定であることから、当初の予算では投資的事業、いわゆるハード事業を計上していない骨格予算編成となっています。 ・ 収益的収支のうち、病院事業収益は前年度対比で１，０８１千円の増となっており、主な要因は町からの補助金が増額されたことによるものです。病院事業費用は前年度対比で７，４０６千円の増となっており、主な要因は経費と減価償却費が増額されたことによるものです。経費のうち、厚生病院に支払う運営交付金は１５６，４０９千円のうち、１５２，８２５千円となっています。その他については若干の予算増はあるものの、概ね前年度同様となっています。 ・ 資本的収支のうち、資本的収入は出資金が前年度対比３，０００千円の増となっていますが、先ほどご説明しましたとおり、骨格予算編成であることから企業債借入が前年度対比で皆減となっています。資本的支出も建設改良費が前年度対比で皆減となっていますが、新町長とも協議のうえ、既に指定管理者と協議済みの医療機器更新経費を６月議会で補正予算として上程していく予定です。 ・ ６月議会を経た病院事業予算については、次回、９月頃開催予定の本協議会で改めてご説明したいと考えています。
毛利会長	報告事項の説明が終わりました。皆さんから質問や御意見はありますか。
毛利会長	ないようですので、その他として、指定管理者から何かありますか。
工藤事務長	ありません。
梅津課長	<p>事務局から、鶴川厚生病院とも関連がありますので、昨年３月に北海道で初めて策定した「むかわ町事前復興計画」について、概要版を用いてご説明します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事前復興計画は、むかわ町として被災による被害が一番大きいとされる日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震からの復興まちづくりについてあらかじめ考えておくだけでなく、被災前に実施が可能と思われる防災対策等についてもあらかじめ施策化しており、このような取り組みを国でも策定を奨励しています。 ・ 被災直後の防災行動は別に定める地域防災計画に基づき行いますが、これと並行してどのように復興まちづくりを進めるのか、被災前の冷静に考えられる時期に、この計画をもとに皆さんと考えるために策定しました。この計画をたたき台として、今年度を含め５年間で協議していきたい考えです。 ・ 通常は被災後、被災規模に基づき決定していく復興基本方針のほか、復興まちづくりを図面上どのように進めるのかのイメージ図を、被災直後から１０年間で４枚の図に分けて作成しています。イメージ図ではありますが、応急仮設住宅や災害公営住宅の候補地を決めておくことで、そこは災害廃棄物置き場にしないなど、応急対応や復興まちづくりが遅れが生じないよう留意しています。 ・ このイメージ図のとおり復興まちづくり事業を実施する場合には約４００億円の復興費用が必要で、工程表も掲載しています。 ・ また、復興基本方針ごとに、１０年と設定した復興期間で、どのような順序で各基本方針に基づく取り組みが実施されていくのかをロードマップで示しているほか、自助・共助・公助それぞれの役割も明記しています。 ・ 鶴川厚生病院に関する記述としては、今年度を含む５年間で被災前に実施できる施策の調査・研究、現時点では避難対策の調査・研究を進めています。厚生病院付近は４ｍ５０ｃｍから５ｍ５０ｃｍ程度の津波浸水（深さ）が想定され、２

	<p>階まで浸水することから、発災から津波第一波が到達するとされている約40分で水平避難することも、病院が改築されてからまだ15年弱というなかでの事前移転改築も難しく、垂直避難させる方法から調査・研究を進めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ その他、被災直後で最大3,800人の避難者が発生し、一番条件が悪い時季に避難行動が遅れてしまうと2,000人強の方が死亡する想定でもあることから、どの場所で、どのように臨時的に医療を再開し、その後どこに病院を再建するのも今後の調査・研究課題となっています。このような計画となっていることを委員のみなさんにもご説明したく、本日、ご説明した次第です。
毛利会長	<p>かなり大きな被害想定となっており、その想定に沿って約400億円という復興事業費も示されています。消防署鶴川支署の避難場所の高さ9メートルですよ。</p>
梅津課長	<p>消防署鶴川支署屋上の避難場所の高さは手持ち資料がありませんが、この付近では最大1m50cm程度の津波が到達する想定ですので、屋上まで垂直避難すれば大丈夫です。ただし、垂直避難場所は津波が完全に収束するまで雨風をしのげず、移動することもできないので、可能な限り浸水区域外である日高自動車道より北側に水平避難していただくのが最初の選択肢となります。</p>
佐藤委員	<p>高齢の方が多いので、やはり車を使って避難する状況が想定されますが、地面の起伏などにより車を使えるかわからないですよ。</p>
梅津課長	<p>事前復興計画で想定している地震の震度は最大で震度5強であり、胆振東部地震の震度6強より小さいことから、想定している地震による道路被害は少ないと見込んでいますが、実際の道路被害は発災してみないとわからないところです。</p>
佐藤委員	<p>昨年のカムチャツカ半島沖地震では、道道が渋滞しており、別の路線から避難すれば緩和できたように感じますが、そのような情報が少ないと感じます。</p>
梅津課長	<p>以前に全戸配布した津波ハザードマップでは、鶴川地区市街地の各地区ごとに推奨する車での避難ルートを掲載していますが、浸透性が低いと感じており、今後の課題です。</p>
工藤事務長	<p>鶴川慶寿苑、鶴川厚生病院とも課題は同じで2階まで浸水する想定で、鶴川厚生病院は1階が浸水した時点で電子カルテのサーバ、燃料系機器、各種医療機器が完全に使用不能になりますので、通常の診療を一時制限し、別の場所で臨時的に診療するしかない状況です。また、院内の全員が安全避難する術がない状況で、2階の入院患者のうち、施設点検等のため設置されている狭い屋上へ登る階段を自力で登ることができるのは平均入院患者20名強のうち1人か2人だけです。</p>
梅津課長	<p>このような現実を町としてどのように対応していくのかを調査・研究していくこととなります。車での避難も晴海地区の事業所で1度だけ訓練したところ、カムチャツカ半島沖地震発生時は混乱なく避難できたそうですが、津波ハザードマップで推奨している車両避難ルートに基づき町内全域で訓練するにあたっては、交通事故等の発生が懸念され実施に至っていません。</p>
毛利会長	<p>本日は次年度の診療体制等について報告いただきました。今後も安心できる医療体制の継続をお願いして、以上で、運営協議会を終了します。本日はありがとうございました。</p>

(閉会)